

全文構造解説

この冊子の使い方

1つの文について、【英文】 → 【構造】 → 【解説】 → 【語句】 の順で並んでいる。

1. 【英文】を音読する。構造と内容が理解できれば、次の【英文】に進んでよい。理解できなければ、
2. 【構造】を音読する。文の構造と、まとめりごとの訳（直訳）を確認する。さらに、必要に応じて、
3. 【解説】を読む。直訳を咀嚼^{そじやく}して、要するにどういうことを言っているのか、内容の理解を試みる。
この時点で理解できなければ、「解答・解説」の日本語訳（意識）で内容を確認する。
4. 理解した内容を念頭に、構造と内容が理解できるまで、繰り返し【英文】と【構造】を音読する。
5. 【語句】を音読して、意味を確認する。

最後にもう一度、できれば二度三度、本文英文を、できるだけ速く、頭から意味をとりながら読むこと。

凡例および注意点

凡例：

■ = 段落番号 ① = 文番号

構造 = 【構造】

主 = 主語（部） 動 = （述語）動詞 目 = 目的語（句・節） 補・名 = 補語となる名詞

副 = 副詞（句・節） 関代 = 関係代名詞 過分 = 過去分詞 など

「 」 = 直前部分までの訳（直訳中心）

[] / { } / [[]] など = 注意を要する、句や節などの意味のまとめり

*1 = 【解説】 とくに注意を要する箇所の指摘および解説

暗例 = 例文（句や節を含む）。暗唱できるようになることを強くお勧めする

() = 省略可、あるいは補足・別表現

[] = 直前の語句との入れ換え可

< > = 重要な用語、あるいは構文・イディオム

語句 = 【語句】

[|] = 発音。左側が発音記号。右側が発音時の目安となるカタカナ表記で、ゴシック体はアクセント

⇒ = 派生語・反意語 など

注意：

【構造】と【解説】は、既出表現や構造が平易な英文については、簡略化、あるいは省略することがある

全文構造解説

凡例： ㊦主語、㊧目的語、㊨接続詞、㊩補・形補語となる形容詞、㊪副詞（句・節） など

英文構造の原則

英文の構造は、〈**文の要素**〉と〈**副詞**〉で説明できる。文の要素とは、**主語** (S)、**述語動詞** (V)、**目的語** (O)、**補語** (C) のことで、これらの意味のまとまりを正しい順序で並べることで「文法的に正しく、意味の通る」文が成立する。文の要素が欠けたり、順序が正しくなかったりすると、このような英文は成立しない（だから、文の要素と呼ぶのである）。他方、副詞は文の要素ではなく、なくても文法的に正しい文が成立し、置く位置(順序)も比較的自由である。もちろん、文の要素でなくても、副詞も重要である。例えば、副詞 not がないと英文の意味はまったく逆になってしまう。

主語とは、日本語の「～は、～が」にあたる、文の主体となる名詞の意味のまとまりのこと。述語動詞とは、日本語の「～する、～である」にあたる、主語の動作や存在を表す意味のまとまりのこと。目的語とは、日本語の「～を、～に」にあたる、主語の動作の目標(目的)となる、主語とは異なる名詞の意味のまとまりのこと。補語とは、主語や目的語の内容を補う、名詞あるいは形容詞の意味のまとまりのこと。内容的に〈主語＝補語〉あるいは〈目的語＝補語〉が成立する。

文の要素と副詞は、文構造の「役割」としての品詞に分類できる。つまり、主語と目的語は必ず**名詞**、述語動詞は**動詞**、補語は**名詞**あるいは**形容詞**である。これに**副詞**を加えた4つの品詞は、(単)語のほかに、複数の語からなる意味のまとまりである〈句〉や〈節〉の形をとることもある。

これら4つの品詞の性質についてまとめると、名詞は「人、もの、こと」を表し、動詞は名詞の動作や存在を表し、形容詞は必ず名詞を形容（修飾）し、副詞は名詞以外のあらゆるものを修飾する。

句と節についてまとめると、節とは〈主語＋動詞 (SV)〉構造を中心とする1つの意味のまとまりのことで、句とはSV構造を中心としない1つの意味のまとまりのこと。まず節は、文の中心となる〈**主節**〉と、主節に従う〈**従属節**〉に大別できる。従属節はふつう**接続詞**に導かれて、**名詞節**や**副詞節**になる。次に句は、複数の語で1つの名詞の意味となる**名詞句**、同じく1つの動詞の意味となる**句動詞**(^{*}動詞句とはいわない)、同じく**形容詞句**、**副詞句**などとなる。

上記の内容は英文の構造に関わる原則であり、例えば関係詞やto不定詞、間接疑問といった個別の文法項目は、本来この構造原則の中で説明されるものである。そして、原則とは、意識する必要がなくなるくらいまで、繰り返しの訓練によって徹底的に身につけるべきものである。

この冊子は、この原則が具体的に確認できることを目的に作られた。すべての文について、文の要素と副詞を「意味のまとまり」で切り分け、それぞれがどのような形(名詞句・節や副詞句・節など)になっているのか、その構造が確認できるようになっている。容易に理解できる文もあればそうではない文もあるだろうが、複雑な文を単純化できることこそ、この冊子のねらいである。最初のうちは共通する文構造を常に意識し、繰り返しの音読訓練によって身につけてほしい。やがてこれを意識下に追いやることができれば、英語力の土台は十分にできあがっているはずである。

第1問A

0 **㊦** You are studying about Brazil in the international club at your senior high school.

構造 ㊦ **You** ㊨ **are studying** ㊪ **about Brazil** 「あなたはブラジルについて勉強している」 ㊪ **in the international club** ㊪ **at your senior high school.** 「あなたの高校の、国際クラブで」

***1**：文や節における、主語の動作や状態を表す動詞を〈述語動詞〉といい、本冊子では意味のまとまりとして扱う。つまり、study は語としての動詞だが、文や節における役割としての述語動詞は、本文のように現在進行形のこともあるし、助動詞や否定語 not を伴ったり、句動詞やイディオムになったりすることもある。

***2**：〈前置詞＋名詞〉の意味のまとまりは、原則として副詞句と考えるとよい。ここでは、in the international club も、続く at your senior high school も、場所を表す副詞句。ただし、例えば keys on the wall 「壁に掛かったカギ」では、on the wall は名詞 keys を修飾している。形容詞は定義として名詞を形容（修飾）するものだから、この on the wall は形容詞句とも解釈できるし、key の場所を示す副詞句とも解釈できる。このような場合、形容詞か副詞かを見定めることに意味はない。何が何を修飾しているのかを見定め、その意味のまとまりを正しくイメージできればよい。なお、本文の about Brazil も副詞句としたが、study about を1つの句動詞と考え、Brazil をその目的語と解釈してもよい。〈目的語〉については、左記の「英文構造の原則」を確認すること。

語句 international [ɪntərnəʃənl | インタナショナル] ㊪ 「国際的な (inter- 「相互の」＋ national 「国家の」)、senior [sɪnjər | スィーニャー] ㊪ 「年上の、上位の」⇒ junior [dʒuːnjər | ジュニーニャー] ㊪ 「年下の、下位の」(※発音記号の /ə/ は schwa 「シュワー」といって、唇を脱力した a, e, i, o, u などの母音の音になる。はっきりと発音しないよう心がける。また、/l/ (エル) の音は、舌先を上顎と歯の間に付けるときの子音だが、続く母音を伴わないときには舌が付かず、「ウ」や「ユ」の音に聞こえることがある。本冊子における発音記号のカタカナ表記では混在することがある)

2 Your teacher asked you to do research on food in Brazil.

構造 ㊦ **Your teacher** ㊨ **asked** ㊧ **you** 「あなたの先生はあなたに頼んだ」 ㊩ **(to do** ㊧ **research on food in Brazil).** 「ブラジルの食べものに関する調査をすることを」

***1**：〈ask O to do〉「Oに～するよう頼む」の意味で、目的語 O は続く to 不定詞の意味上の主語になる語法（文の法則「文法」と同様、語がそれぞれに持つの法則のこと）。ここでは目的語 you と続く to 不定詞が「内容的にイコールになる」ものとして、to 不定詞を便宜的に〈補語となる名詞〉としたが、この語法は頻度が高く、そのまま覚えてしまうのがよい。**暗例** I want you to come with me. 「あなたと一緒に来てほしい。」(※動詞 want の目的語 you は、to come 以降の動作の意味上の主語) I encouraged my son to make friends with the girl next door. 「私は息子に、隣の家の少女と友達になるよう励ました。」(※動詞 encouraged の目的語 my son は to make friends 以降の動作の意味上の主語)

語句 research [rɪ:sə:rtʃ | リーサーチ] ㊪ **research on food in Brazil** 「～に関する (※ about よりも硬い表現)」

3 You find a Brazilian cookbook and read about fruits used to make desserts.

構造 ㊦ **You** ㊨ **find** ㊧ **a Brazilian cookbook** 「あなたは

第1問A段落 **0** 文 **1**～**3**

ブラジル料理の本を見つける」 ㊨ **and** ㊨ **read** ㊪ **[about fruits** ㊨ **used** ㊪ **{to make** ㊧ **desserts}].** 「そしてデザートを作るために使われるフルーツについて読む」

***1**：この接続詞 and は、find と read の2つの動詞それぞれが導く部分を対等に接続していると考える。このような、語と語、節と節などを等位につなぐ接続詞を〈等位接続詞〉という。

***2**：この過去分詞 used 「使われる」は、直前の名詞 fruits を後ろから修飾している（〈後置修飾〉という）。名詞を形容・修飾するのは形容詞なので、このような用法を〈分詞の形容詞用法〉という。fruits 以降が1つの名詞の意味のまとまりになっていることを意識する。

***3**：この to 不定詞は、直前の過去分詞 used を修飾していると考える。used は名詞ではないので、この to 不定詞は副詞的用法「～するために」である。名詞を修飾するのは形容詞、それ以外を修飾するのはすべて副詞と考えるのが原則。また、to 不定詞には動詞の機能が残るので、目的語をとることもできる。

語句 Brazilian [bræzɪliən | ブラゼリアン] ㊪ 「ブラジルの」 ㊪ **[ブラジル人]**、dessert [dɪzə:rt | デザート] ㊪ **[デザート]** ⇒ desert [dézə:rt | デザート] ㊪ **[砂漠]**(※発音記号の /i/ は、「イ」の口のかたちで「エ」と発音する、イとエの中間の音。発音記号のカタカナ表記では混在することがある)

* * * * * *

(図表部分)

1 **㊦** Popular Brazilian Fruits

構造 ***1** **Popular Brazilian Fruits** 「人気のあるブラジルのフルーツ」

***1**：タイトルとなる名詞句で、文ではない。

語句 popular [pəˈpjʊləɹ | パビュラァ] ㊪ 「人気のある」

2 **㊦** Cupuaçu

構造 **Cupuaçu** 「クプアス」

語句 cupuaçu [kupuasú: | クプアスー] ㊪ **[クプアス (※熱帯雨林に植生するカカオに似た植物)]**

2 Smells and tastes like chocolate

構造 ***1** **Smells and tastes** ㊪ **like chocolate** 「チョコレートのようなにおいと味がする」

***1**：この文には主語がないが、cupuaçu なのは明らかなので、動詞に三単現の -s がついている。ピリオドもないから正確には文ではなく、箇条書きでよく見られるかたち。

語句 smell [smél | スメウ] ㊨ 「においがする」、taste [téɪst | テイスト] ㊨ 「味がする」、chocolate [tʃɔkəlɪt | チョコレト] ㊪ **[チョコレート]**

3 Great for desserts, such as cakes, and with yogurt

構造 ***1** **補・形** **Great for desserts,** 「デザートによい」 ㊪ **such as cakes, and with yogurt** 「ケーキのような、そしてヨーグルトと一緒に」

***1**：Cupuaçu is が省略されている。Cupuaçu と great for dessert が内容的にイコールになるので、この形容詞 great は補語、正確には主語を補うので〈主格補語〉という。

語句 yogurt [ˈjʊɡərt | ヨウグアト] ㊪ **[ヨーグルト]**

4 Brazilians love the chocolate-flavored juice of this fruit.

構造 ㊦ **Brazilians** ㊨ **love** ㊧ **the chocolate-flavored juice**

第1問A段落 **1** 文 **1**
段落 **2** 文 **1**～**4**
段落 **3** 文 **1**～**4**

of this fruit. 「ブラジル人は、このフルーツのチョコレート味のジュースが大好きである」

語句 chocolate-flavored [-fléivəd | フレイヴァァド] ㊪ 「チョコレート風味の」⇒ flavor ㊪ 「風味」、juice [dʒús | チュース] ㊪ **[ジュース (※飲み物ではふつう果汁 100% のものを指す)]**

3 **㊦** Jabuticaba

構造 **Jabuticaba** 「ジャボチカバ」

語句 jabuticaba [dʒəbu:tikɛbə | ジャブーテカバ] ㊪ **[ジャボチカバ (※南米原産、フトモモ科の常緑樹で、濃紺の丸い果実が幹から直接生える)]**

2 Looks like a grape

構造 **㊨** **Looks like** ㊧ **a grape** 「ブドウのように見える」

***1**：like 以降を〈前置詞＋名詞〉の副詞句と考えてもよいが、look like 「～のように見える、～に似ている」を1つの句動詞と考えた方が実用的である。なお、〈前置詞＋名詞〉の副詞句において、この名詞を〈前置詞の目的語〉という。つまり、この a grape は、前置詞 like の目的語、あるいは句動詞 looks like の目的語で、いずれにしても目的語といえる。

語句 look like 「～のように見える、似ている」⇒ resemble [rɪzéɪbl | リゼムブウ] ㊨ 「似ている」

3 Eat them within three days of picking for a sweet flavor.

構造 ***1** **動** **Eat** ㊧ **them** 「それらを食べなさい」 ㊪ **within three days of picking** 「収穫の3日以内に」 ㊪ **for a sweet flavor.** 「甘い風味のために」

***1**：ピリオドで終わる「文」で、動詞の原形から始める命令文。

語句 within [wiðɪn | ウイドイン] ㊪ 「～以内に」(※発音記号 /ð/ は、上下の歯の間に舌先を挟み、声帯を震わせて息を出すときの子音を表す。本冊子では、舌の位置が近い /ダ/ 行で表記する。なお、/θ/ は /ð/ の声帯を震わせない音（〈無声音〉という）だが、これも /タ/ 行で表記する)、pick [pɪk | ピク] ㊨ 「摘む、選ぶ」

4 After they get sour, use them for making jams, jellies, and cakes.

構造 ㊪ **副** ***1** ㊨ **After** ㊦ **they** ㊨ **get** ㊩ **sour,** 「それらが酸っぱくなった後」 ㊨ **use** ㊧ **them** 「それらを使いなさい」 ㊪ **for** ***2** **making** ㊧ **jams**³, **jellies, and cakes).** 「ジャムやゼリー、ケーキを作ることにために」

***1**：ときを表す副詞節で、接続詞 After が導く〈従属節〉。これに対する〈主節〉は use them 以降。なお、副詞は文の要素ではないので、なくても文法的に正しい英文が成立し、その置き場所も比較的自由である。文頭に副詞節や副詞語句を置くときには、〈文の要素〉(主に主語)との境界を明確にするためにコンマ (,) を打つことが多い。文の要素、主節と従属節については、左記の「英文構造の原則」を確認すること。また、従属節を導く接続詞を〈従位/従属接続詞〉という。等位接続詞(本問 **0** **3** ^{*}1の解説を参照)との違いを確認すること。

***2**：この making は、前置詞 for の目的語なので名詞、つまり動詞を名詞のかたちにした動名詞である。動名詞も、to 不定詞と同様、動詞の機能が残るので、そのあとに目的語を続けることができる。このような、動詞の機能を持ちながらも、それだけでは文の述語動詞にならないものを〈準動詞〉という。不定詞、動名詞、現在分詞、過去分詞はどれも準動詞である。

***3**：3つ以上の内容を並列するときにはコンマを使うが、例えば「A と